

頬部に発生した脂肪腫の1例

西野 治 邦 水谷 英 守

齋藤 憲 大橋 靖

新潟大学歯学部口腔外科学第二教室（主任：大橋 靖教授）

石 木 哲 夫

新潟大学歯学部口腔病理学教室（主任：石木哲夫教授）

（昭和56年6月5日受付）

Lipoma of the Cheek: Report of a Case

Harukuni NISHINO, Hidemori MIZUTANI, Ken SAITO & Yasushi OHASHI

2nd Department of Oral Surgery, School of Dentistry, Niigata University

(Director: Prof. Yasushi Ohashi)

Tetsuo ISHIKI

Department of Oral Pathology, School of Dentistry, Niigata University

(Director: Prof. Tetsuo Ishiki)

緒 言

脂肪腫は、腫瘍実質細胞が脂肪細胞からなる非上皮性の良性腫瘍で、主として皮下組織に発生し、口腔領域では主として頬・舌・口底・口唇の粘膜下に発生する比較的稀な疾患であるとされている¹⁾。しかも、その多くは口腔内に腫瘤を形成し、いわゆる粘膜下に発症したものである。

今回、私達は右側頬部皮下に発生し外頬部腫脹を主訴とした脂肪腫の1例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

患者：29歳，男性。

初診：昭和55年9月10日。

主訴：右頬部の腫脹。

既往歴：4～5年前より椎間板ヘルニアに罹患し某病院で半年前まで通院加療を受けており、又、約2年前より上顎洞炎に罹患し約1カ月前まで消炎療法を受けていた。

現病歴：約2年前に右側頬部の大豆大の腫脹に気づいたが不快症状がないため放置していた。その後腫脹は漸次増大し、約1年前より目立つ様になり、約2カ月前某病院の歯科を訪れ相談したところ、口腔外からの摘出をすすめられたが、口腔内からの手術を希望し当科を受診した。

現症：全身所見；特に異常所見を認めない。

口腔外所見：右側頬部の顎角部より約10mm前方にクルミ大の腫脹を認める。表面皮膚は特に異常なく、触診では比較的境界明瞭で弾性軟であり、波動は触れず、圧痛もない。咬筋を緊張させた状態では腫瘤は著明に隆起するが、咬筋との癒着はなく可動性があり、腫瘤表面には凹凸を認めない（図1）。

口腔内所見；右頬部粘膜及びその他軟組織には特に異常を認めない。尚、双手診で右側咬筋外側部に上記の腫瘤を触れる。

歯は右下顎第1大臼歯及び左上顎第3大臼歯の欠損の他異常所見はない。

X線所見；顎骨には特に異常所見を認めない。



図 1 初診時顔貌所見

臨床診断：類皮嚢胞の疑い。

昭和 55 年 9 月 12 日、口腔外より 18G の注射針を用い試験穿刺を施行したところ、固形物が少量吸引された。その病理組織学的所見は角化性重層上皮によって被覆された結合組織で汗腺、皮脂腺、毛根など付属器が認められず類皮嚢胞が疑われた。

超音波所見：境界が比較的明瞭で、内部エコーを伴う扁平な像が得られ、これはいわゆる内容液が貯留した嚢胞にみられる所見とは異なり充実性の良性の腫瘍様病変を疑わせる像であった（図 2）。

臨床検査所見：血液検査、尿検査所見には異常は認められない。臨床化学検査では GOT 67 IU/l, GPT 87 IU/l, LDH 505 IU/l, と軽度の上昇をみた為、本学内科を受診し un-icteric Hepatopathie の診断を得たが、肝全体の機能障害はないと判断された。

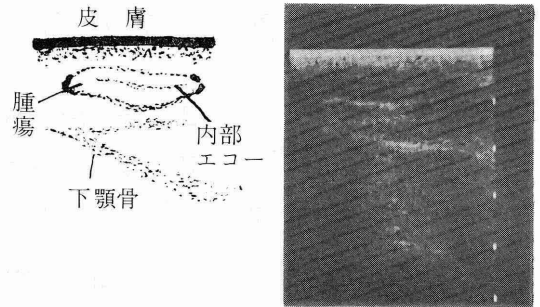


図 2 超音波所見及び模式図



図 3 手術所見

処置及び経過：昭和 55 年 10 月 30 日、全身麻酔下に口腔内より腫瘍摘出術を施行し、まず、右側下顎臼歯部の歯肉頬移行部に歯列に平行に切開を加え鈍的に剥離したところ、腫瘍は周囲組織に癒着など認めず一塊として摘出した。腫瘍は薄い被膜を有し咬筋上、皮膚直下に存在した（図 3）。

摘出物所見：摘出腫瘍は大きさ 28×24×11 mm

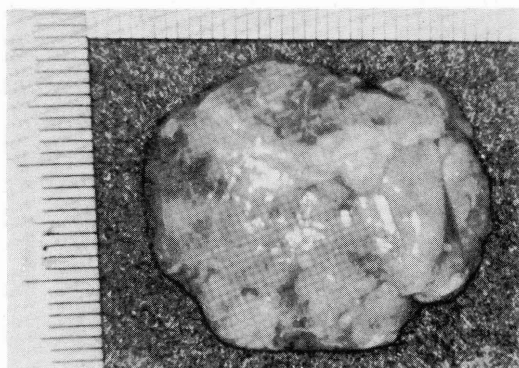


図 4 摘出物所見

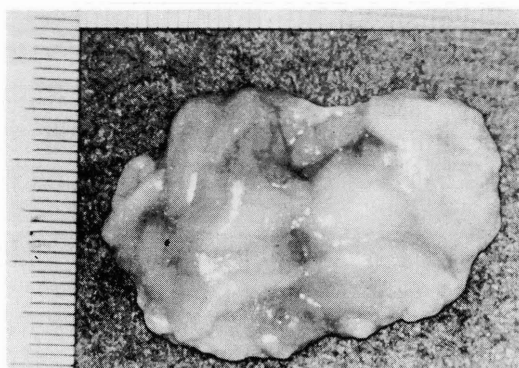


図 5 摘出物所見 (剖面)

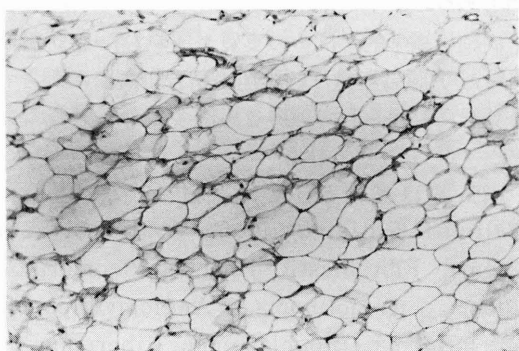


図 6 病理組織所見 (E-E 染色×100)

の圧平された球形を示し重さ 4 g, 表面の色は橙黄色で硬度は弾性軟であった。剖面は橙黄色を呈し充実性の光沢のある脂肪様物質で満たされており, 10% ホルマリン液につけたところ浮遊した(図 4, 5)。

病理組織学的所見: ヘマトキシリンエオジン重

染色を行い病理組織学的に検索した結果, 腫瘍は薄い結合織の被膜におおわれた成熟脂肪細胞を主体とする脂肪腫の所見であった(図 6)。

考 察

脂肪腫は一般に表在性に²⁾³⁾生ずる場合には主として皮下組織に好発し, とくに肩甲部, 殿部, 背部及び頸部がその好発部位として挙げられている。深部に⁴⁾おける発生部位としては筋肉内, 頭蓋内, 肝, 腎, 肺, 腸粘膜下, 後腹膜組織, 子宮, 卵巣, 精系および骨髄などにも生ずることがあるといわれている。口腔領域の発生に関しても Geshickter²⁾は脂肪腫 490 例中, 口腔領域に発生した 3 例を, Simpson⁵⁾は口腔内の癌腫 50 例, 線維性エプーリス 110 例を観察した同じ時期に 7 例の脂肪腫を認めたといひ, 又, Bertelli⁶⁾は 1934 年から 1962 年までの 9 年間に口腔領域の良性腫瘍 633 例のうち 1 例が本症であったという。本邦においては橋本ら⁷⁾は 10 年間に取り扱った口腔領域の良性腫瘍 445 例のうち 8 例 (1.8%), 田中ら⁸⁾は 1967 年 4 月から 1980 年 2 月までの 13 年間に取り扱った口腔領域の良性腫瘍のうち, 病理組織学的検索を行った症例は 338 例でそのうち 8 例 (2.37%) であったと報告している。又, 朱雀ら⁴⁾は 1961 年 1 月から 1967 年 3 月までの 7 年間に病理組織学的検索を行った良性腫瘍 196 例のうち 2 例 (1.0%), 久野ら⁹⁾は 1968 年から 1972 年の 5 年間に検索した良性非上皮性腫瘍 108 例のうち 2 例 (1.8%) に本症を認めたと報告している。一方 Hatziotis¹⁰⁾は 1945 年から 1967 年までの 22 年間に報告された口腔領域に発生した脂肪腫を累計し, 145 例を報告している。今回, 私達が渉猟したところでは 1935 年から 1980 年までの本邦での報告例は 74 例¹¹⁾⁻⁵⁷⁾であった。

この脂肪腫 74 例を発生部位別にみたのが表 1 である。表 1 の如く頬粘膜, 口腔底, 舌と 3 つの部位で全体の約 75% をしめている。

Hatziotis¹⁰⁾による 145 例では頬部 46 例, 舌 28 例, 口腔底 21 例, 歯肉頬移行部 18 例, 口蓋部 18 例, 口唇 9 例, 歯肉 8 例, 不明 2 例が報告されていたといひ頬部, 舌, 口腔底の 3 つの部位で 66

表 1 本邦脂肪腫の口腔領域の発生部位

部 位	症 例
頬 粘 膜	26 (34.9%)
口 腔 底	16 (21.4%)
舌	15 (20.2%)
歯肉頬移行部	6 (8.0%)
口 蓋	5 (6.6%)
口 唇	3 (4.0%)
歯 肉	2 (2.5%)
頬 部 皮 下	1 (1.2%)
耳 介 後 部	1 (1.2%)
合 計	74 (100.0%)

%とやはり多い傾向を示している。今回、私達が経験した頬部皮下に発生した脂肪腫は本邦では滝川ら³³⁾に次ぐものであり、顎顔面領域においては特に稀と思われる。

年齢では Anderson⁵⁸⁾ は 40 歳から 50 歳代に 40%から 50%みられるとし、Geshickter²⁾ は 490 例中 55%が 30 歳から 50 歳に、Hatziotis¹⁰⁾ においては 40 歳以上では 80%，50 歳以上では 64%，60 歳以上では 40%であったと報告している。本邦の発生年齢は 50 歳から 69 歳が約 45%と中年以上に多く見られ、諸外国の報告と同様の結果であった (表 2)。

性別は女性 44 例 (60%)，男性 30 例 (40%) と女性にやや多く見られたが、Frank⁵⁹⁾ は 134 例中男性 36 例 (26.9%)，女性 98 例 (73.1%) と報告しており、Hatziotis¹⁰⁾ は男性 55%，女性 45%，Geshickter²⁾ は 490 例中女性対男性は 3 対 2 であるとし、MacGreger⁶⁰⁾ は男性 31 例 (54.4%)，女性 26 例 (45.6%)，Simpson⁵⁾ は女性 4 例 (57.1%)，男性 3 例 (42.9%) とし報告者により一定でない。

大きさについては文献によりまちまちであるが、一般に小さく拇指頭大から鶏卵大のものが多く、重量も数 g から数 10g のものが多いが飯田ら⁴²⁾ の鶏卵大、100g 及び田中ら¹⁸⁾ の手拳大、95g など大きなものまで報告されている。

本腫瘍の色調については実質細胞が脂肪組織からなるためか黄色を基調としたものが多く報告さ

表 2 本邦脂肪腫の発生年齢

年 齢	症 例
0 ~ 9 歳	8 (10.9%)
10 ~ 19	3 (4.0%)
20 ~ 29	3 (4.0%)
30 ~ 39	10 (13.6%)
40 ~ 49	8 (10.9%)
50 ~ 59	15 (20.2%)
60 ~ 69	19 (25.7%)
70 ~ 79	7 (9.5%)
80 ~	1 (1.2%)
合 計	74 (100.0%)

れている。

硬度は弾性あるいは弾性軟が多く報告されているが、田中ら⁸⁾ の報告のように深部にある場合は他組織に囲まれるためか弾性硬を呈するものも報告されている。

脂肪腫は良性で、その発育が一般に比較的緩慢で自覚症状が少ないため放置されることが多く、経過は数年に及ぶものが多いようである。長いものでは横井¹¹⁾ の 31 年間に粟粒大から桜桃大になった下口唇の 1 例、Bertelli⁶⁾ の 20 年間に及ぶ例もある。

病理組織学的にはその実質が成熟した脂肪組織からなり腫瘍組織は線維性の結合組織索によって分葉状に分けられていることが多く報告されている。

脂肪腫は基質及び腫瘍細胞の性状によって Well-differentiated lipoma の他に Myxoid lipoma, Fibroblastic lipoma, Pleomorphic lipoma, Angiolipoma, Angiomyolipoma, Myelolipoma, Lipoblastoma, Hibernoma と分類している⁶²⁾。今回、私達の経験した例は Well-differentiated lipoma に相当する。尚、今回試験穿刺時吸引された固形物は頬部皮膚を疑わせる所見であったが摘出された腫瘍には同様の所見は認められず頬部皮膚であったと考えられ、目的の組織採取に際しての注意を痛感した。

脂肪腫の組織発生に関しては異所発生説、過形成説などがあり、その成因としては先天的内因、

内分泌の失調, 神経・末梢神経との関係, 結核症及び持続的刺激が挙げられている¹⁸⁾。MacGreger⁶⁰⁾は外傷と遺伝を挙げ, Simpson⁵⁾は7例中4例が外傷によると思われる症例を報告している。又, Bruce⁶¹⁾は頤神経と関連あると思われる脂肪腫を報告している。しかし自験例においてはこのような要因と思われる事項は明らかではない。

診断は上記症状と組織学的検索による鑑別診断として mucocele, ガマ腫, リンパ管腫, 線維腫, ゴム腫, 結核腫, 類皮嚢胞, 類表皮嚢胞, 癌腫などと共にポリープ, エプーリスや膿瘍などとの鑑別の必要性が述べられている⁴⁾⁷⁾¹⁸⁾²²⁾⁶¹⁾。

その方法として通常用いられる各種診断法¹⁸⁾の他に今回, 私達は超音波診断法を応用し, その結果境界が比較的明瞭で, 内部エコーを伴う扁平な像が得られ, これはいわゆる内容液が貯留した嚢胞にみられる所見とは異なり充実性の良性の腫瘍様病変を疑わせる像であった。この様に軟部組織病変の診断にあたって超音波診断法は1つの有用な方法として追加することができると思う。

治療法は外科的摘出で再発することは少ないとされている。私達の症例も術後5カ月の現在, 再発の傾向を認めていない。

結 語

29歳, 男性の右側頬部皮下に発生した脂肪腫の1例を報告した。処置は口腔内より腫瘍の全摘を行なった。術後5カ月を経過した現在, 再発の徴候は認めていない。

併わせて, 本邦報告例を中心に文献的考察を加えた。

文 献

- 1) 赤崎兼義: 病理学総論. 第11版, 326-327, 南山堂, 東京, 1973.
- 2) Geshickter, C. F.: Lipoid tumors. Am. J. Cancer **21**: 617-641, 1934.
- 3) Godby, A. F.: Sublingual lipoma with ectopic bone formation. Oral Surg. **14**: 625-629.
- 4) 朱雀直道, 他: 頬粘膜下に発生した脂肪腫の

- 2 症例. 口科誌, **16**: 499-504, 1967.
- 5) Simpson, H. E.: Lipoma of oral cavity. Oral Surg. **12**: 349-352, 1959.
- 6) Bertelli, A. P.: Uncommon tumors of the tongue. Oral Surg. **19**: 77-85, 1965.
- 7) 橋本賢二, 他: 口腔底脂肪腫の1例. 日口外誌, **23**: 837-841, 1977.
- 8) 田中大順, 他: 口腔領域に発生した脂肪腫8例の臨床的観察. 日口外誌, **26**: 198-203, 1980.
- 9) 久野吉雄, 他: 歯肉に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌, **19**: 135-138, 1973.
- 10) Hatziotis, J. Ch.: Lipoma of the oral cavity. Oral Surg. **31**: 511-524, 1971.
- 11) 横井 稔: 口唇脂肪腫ノ一例. 大日本耳鼻咽喉科会会報, **41**: 1554-1556, 1935.
- 12) 高崎琢男, 他: 口腔ノ後半を充タセル巨大ナル脂肪腫ノ一例. 耳喉, **10**: 436-438, 1937.
- 13) 元山 徹: 対側性頬粘膜下脂肪腫の1例. 耳鼻咽喉科臨床, **36**: 509-511, 1941.
- 14) 小畑芳美: 歯肉粘膜下に発生した脂肪腫の1例について. 歯科学雑誌, **5**: 95-97, 1948.
- 15) 野津邦雄: 多発性瀰漫性脂肪腫の1例. 通信医学, **5**: 453-456, 1953.
- 16) 田島時博, 他: 口腔内脂肪腫の症例に就て. 口科誌, **4**: 376-378, 1955.
- 17) 市川辰巳: 口底脂肪腫の一例について(会). 日口外誌, **6**: 534, 1960.
- 18) 田中 順: 頬粘膜に生じた線維性脂肪腫の1例. 口病誌, **28**: 251-257, 1961.
- 19) 小淵貞夫: 口腔底に発生した稀有なる脂肪腫の一例. 長崎医会誌, **31**: 125-127, 1956.
- 20) 林 四郎, 他: 口腔底脂肪腫の1例(会). 日耳鼻, **65**: 245, 196.
- 21) 加藤純彦, 他: 口蓋脂肪腫の一例. 耳鼻臨床, **56**: 376-377, 1963.
- 22) 岡本 治, 他: 臨床診断において皮様嚢胞と誤診した脂肪腫の1例. 歯科学報, **63**: 749-750, 1963.
- 23) 小川克二: 舌脂肪腫1症例(会). 日耳鼻, **66**: 1580, 1963.
- 24) 大井一正, 他: 口腔底に発現した巨大な脂肪腫の1例(会). 歯科学報, **63**: 362, 1963.
- 25) 間仁田恭一, 他: 口腔の線維性脂肪腫につい

- て. 日口外誌, **10**: 231-233, 1964.
- 26) 宇都宮和喜: 巨大なる脂肪腫の1例(会). 日赤医学, **16**: 246, 1964.
- 27) 細川雅敏: 口蓋脂肪腫の1症例(会). 日耳鼻, **67**: 1041, 1964.
- 28) 高橋忠彦: 舌脂肪腫の2例(会). 日耳鼻, **68**: 1063, 1965.
- 29) 野井倉武憲: 舌に生じた脂肪腫の一例. 日本歯科評論, **287**: 97, 1966.
- 30) 山田孝良, 他: 脂肪腫の2例について. 日口外誌, **13**: 348-351, 1967.
- 31) 梶山 稔, 他: 脂肪腫の2例. 九州歯会誌, **21**: 34-40, 1967.
- 32) 荻原 力, 他: 舌下部及び顎下部にみた脂肪腫と皮様嚢胞. 日口外誌, **14**: 145-148, 1968.
- 33) 滝川富雄, 他: 口腔外科領域に生ずる脂肪腫について. 日大歯学, **43**: 472-482, 1969.
- 34) 柴田重雄, 他: 口底部 Fibro lipoma の1例. 口科誌, **19**: 737-740, 1970.
- 35) 中村保夫, 他: 口腔底にみられた脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **16**: 245, 1970.
- 36) 亀山嘉光: 舌下部の類皮嚢胞を想わせる大なる脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **17**: 569, 1971.
- 37) 田中広一, 他: 巨大な口腔脂肪腫の1例(会). 口科誌, **22**: 677, 1973.
- 38) 大屋高德, 他: 頬粘膜部に発生した脂肪腫の1症例. 日口外誌, **19**: 720-721, 1973.
- 39) 中室嘉康, 他: 左側頬粘膜下に発生した単純性脂肪腫の一例. 歯科医学, **36**: 674-677, 1973.
- 40) 豊嶋昭治, 他: 口腔底に発現した巨大な脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **20**: 722, 1974.
- 41) 飯田 武, 他: 口腔底部に発生した巨大な脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **21**: 861, 1975.
- 42) 伊藤泰蔵, 他: 右口腔底に発生した脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **21**: 861, 1975.
- 43) 関田俊介, 他: 脂肪腫の2例. 鶴見歯学, **2**: 69-74, 1976.
- 44) 佐藤正一郎, 他: 口蓋に発生した Fibro lipoma の1例(会). 日口外誌, **24**: 1339, 1978.
- 45) 小沢存雄, 他: 左側頬粘膜部に発生した脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **22**, 967, 1976.
- 46) 高田伸夫, 他: 頬部脂肪腫の2例. 日口外誌, **23**: 569-573, 1977.
- 47) 藤好ふみ子, 他: 舌に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌, **24**: 575-578, 1978.
- 48) 後藤 潤, 他: 舌にみられた骨・軟骨を有する脂肪腫の1例(会). 口科誌, **27**: 454, 1978.
- 49) 真喜屋恒代, 他: 頬部に生じた脂肪腫の2例. 口科誌, **27**: 97-102, 1978.
- 50) 内田 稔, 他: 左側頬粘膜部に発生した脂肪腫の1症例. 日口外誌, **25**: 714-718, 1979.
- 51) 群家常雄, 他: 顎下部にみられた脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **25**: 956, 1979.
- 52) 川原秀樹, 他: 幼児の頬部に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌, **25**: 886-889, 1979.
- 53) 鶴野一洋, 他: 口蓋垂に発生した脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **25**: 956, 1979.
- 54) 三科正見, 他: 幼児の頬粘膜に発生した脂肪腫の一例(会). 日口外誌, **28**: 580, 1979.
- 55) 倉地洋一, 他: 下口唇にみられた脂肪腫の1例(会). 日口外誌, **25**: 733, 1979.
- 56) 高井克憲, 他: 舌に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌, **26**: 153-155, 1980.
- 57) 倉地洋一, 他: 下口唇に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌, **26**: 209-214, 1980.
- 58) Anderson, W. A. D.: Pathology 1. ed 6, Mosby Co, St Louis, 1971.
- 59) Frank, E. A.: Lipomas. Am. J. Cancer: 1104-1120, 1937.
- 60) MacGreger, A. J. and Dyson, D. P.: Oral lipoma. Oral Surg. **21**: 770-777, 1966.
- 61) Bruce, K. W.: Lipoma of the oral cavity. Oral Surg. **7**: 930-938, 1959.
- 62) Hajdu, S. I.: Pathology of soft tissue tumors. Lea & Febiger Philadelphia, 236-250, 1979.